

令和6年度

教員のための

# 自己研修の進め方

アクション・リサーチの手法を用いて



岩手県立総合教育センター

# 目次

はじめに ～研修の大切さ～	1
I 自己研修の考え方	2
II アクション・リサーチの手法を取り入れた自己研修	4
III 自己研修の進め方と留意点	6
IV 自己研修を進めるために配慮する事項	8
V 自己研修のポートフォリオ	9
VI 自己研修のためのシート	
自己研修のテーマ設定シート	10
Planシート	12
Do&Checkシート①	14
Do&Checkシート②	16
Actionシート	17
〔様式1〕自己研修シート	18
テーマ設定について	20
〔様式2〕自己研修シェアリング	21
自己研修を通して学んだこと	22

## はじめに ～研修の大切さ～

人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられたSociety5.0時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものが劇的に変わる状況が生じています。さらに学校現場では、学ぶ意欲や規範意識の低下、いじめや不登校などの問題等が顕在化し、学校教育や学校教員はこれらの変化に伴う課題への対応に迫られています。

学校教育の充実は、児童生徒の教育に直接携わっている教員の資質能力に負うところが極めて大きく、教員は、絶えず新しい専門的知識や指導技術等を身に付けていく必要があります。そのためには、教員は児童生徒にとっての重要なロールモデルであることを自覚しつつ児童生徒の主体的な学びを支援する伴走者として変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶ主体的な姿勢が必要です。また、教員はこれから求められる資質・能力の姿を明らかにした教員等育成指標を踏まえつつ、自らの学びのニーズに動機づけられ、職務遂行に必要な資質能力を定義しながら学びをマネジメントしていくこと、つまり個別最適な学びが求められています。その学びには、適切な目標設定と現状の適切な把握が不可欠であり、この「現場の経験」を含む学びを同僚や同じ研修者どうしで共有し、理解を深める機会を持つことで、教師が創造的で魅力ある仕事であることが再認識され、誇りを持ち働くことができます。

教員研修のねらいは、児童生徒の人間としての望ましい成長・発達を促すことを担う教員としての資質の向上にあります。それは、教育の目的が、人格の完成を目指し、平和的な国家及び社会の形成者として、心身ともに健康な国民を育成することにあるからです。国や社会の動きを的確に捉え、家庭・地域と連携・協働しながら様々な課題に取り組むことにより、児童生徒の確かな成長に寄与できる資質と能力を育成していくことが大切です。

### 関係法規

#### ○教育基本法

##### （教員）

第9条 法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。

2 前項の教員については、その使命と職責の重要性にかんがみ、その身分は尊重され、待遇の適正が期せられるとともに、養成と研修の充実が図られなければならない。

#### ○教育公務員特例法

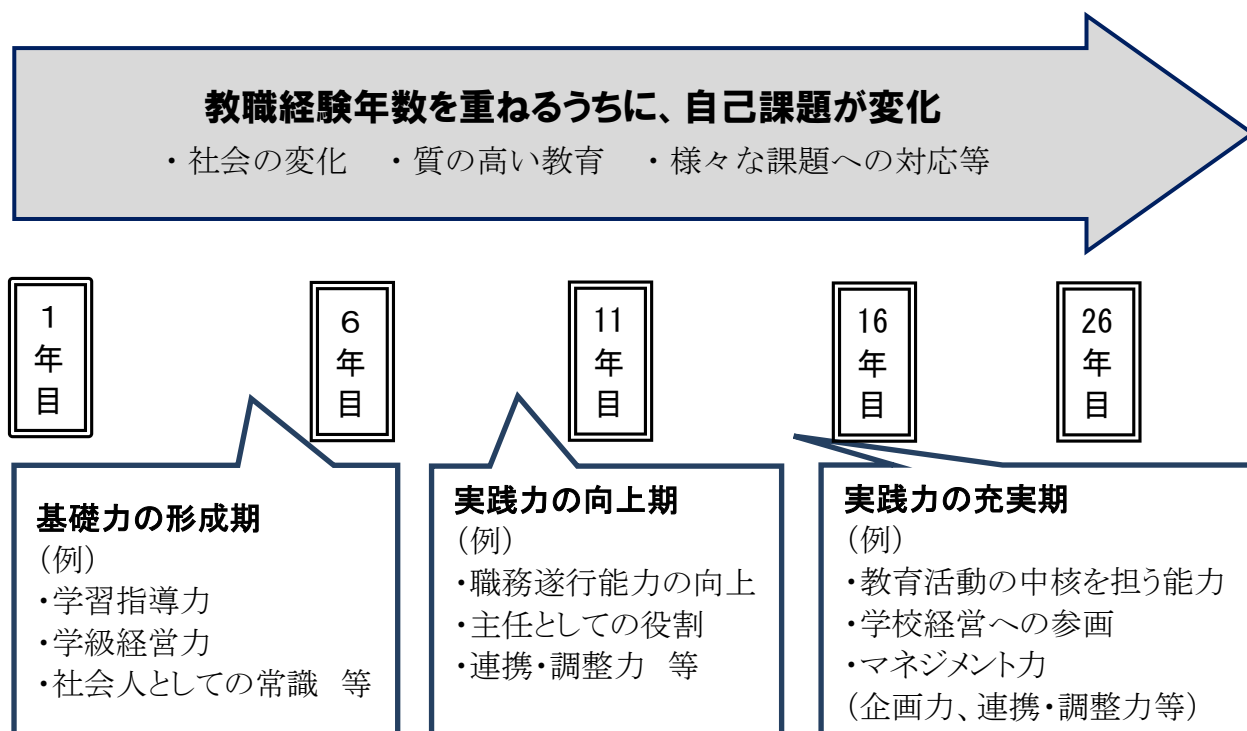
##### （研修）

第21条 教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。

# I 自己研修の考え方

『令和の日本型教育』を担う教師の在り方」の中に、「新たな教師の学びの姿」として、改めて「学び続ける存在」（中教審答申）であることが示されました。初任者研修講座センター研修においては、アクション・リサーチという手法で、教員としての力量向上を目指していきます。

次の【図1】のように、教職年数を重ねるうちに、自己課題は変化していきます。その時々状況に応じて職務を遂行できるように、私たちは、教職生活全体を通じて、「学び続ける存在」であることが不可欠です。



【図1】自己課題の変化

次ページの【表1】「岩手県における教員育成の概要 抜粋」（令和6年度 教職員研修の手引 岩手県教育委員会）は、改正された教育公務員特例法に基づき策定された、「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」を受けた内容になっています。5年から10年でライフステージを区切ってみると、それぞれの段階で求められるものが変化していることが分かります。

私たち教員は、それぞれのライフステージに応じた能力を身に付けていくことが必要なのです。そのために、毎日の教育活動の中から課題を見付け、解決する実践を繰り返すことによって教員としての力量を向上させていくこと、これが自己研修の考え方です。

【表1】岩手県における教員養成の概要 抜粋

キャリア・ ライフステージ	目指す教員像
採用時	学習指導、児童生徒理解、生徒指導、学級経営など、教育活動に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。
基礎力の形成期 【初任者研修】 【2年目研修】 【3年目研修】 1～5年	初任校における学校勤務の経験を通じて、教育活動に関する基礎的な職務遂行能力を身に付けている。
実践力の向上期 【教職経験者 5年研修】 6～10年	複数の学校勤務の経験を通じて、教諭としての基盤を確立し、自らの実践を常に振り返りながら、職務遂行能力を向上させている。
実践力の充実期 【中堅教諭等資 質向上研修】 11～15年	学校運営の中堅として、学校全体を見渡す視野を持ち、若手教員の模範となりながら職務遂行能力を更に高めている。
実践力の発展期 16～25年 【ステージアップ 研修〈前期〉】	中堅としての役割と責任を自覚し、同僚教員の資質向上を支援しながら、校内外に広く目を向け、関係者と連携して学校運営を牽引している。
総合力の発揮期 26年～ 【ステージアップ 研修〈後期〉】	教諭としてのこれまでの実践を基に、総合力を発揮しながら円滑な学校運営に貢献している。 また、教員としてのこれまでの豊富な経験を踏まえ、若手教員へのサポートを行うなど、人材育成に貢献している。

## Ⅱ アクション・リサーチの手法を取り入れた自己研修

### 1 アクション・リサーチとは

日々の教育活動（action）を進めながら行う実践研究（research）です。

何か特別なことを行うのではなく、日々の教育活動の中から、自己の課題を見付け、解決のための手立てを考え、実行し、その結果を振り返る自分サイズの実践研究です。

### 2 アクション・リサーチの特徴

アクション・リサーチの特徴として、以下の点を挙げるすることができます。

- ・自分の力量にあったテーマを設定することができる。
- ・実践の振り返りをすることにより、考えを深めることができる。
- ・手立てや計画を見直し、何度も立ち返ることができる。
- ・上司や同僚の意見を聞くことで新たな発見ができる。

本テキストでは「アクション・リサーチ」の手法を取り入れた自己研修の進め方について述べていきます。

### 3 自己研修（アクション・リサーチの手法）の流れ

本テキストで述べる「自己研修」はすべて「アクション・リサーチ」の手法を含めて「自己研修」と表記します。

自己研修の流れは、PDCA（Plan、Do、Check、Action）のサイクルで行われます。

Planは「自己研修のテーマ設定」から「計画立案」まで、Doは「実践」、Checkは授業や指導の「結果の考察」、自己研修の過程の「振り返り」および他の教員との「実践交流」、Actionは「改善」を示しています。一連の流れは次ページの【表2】のようになります。

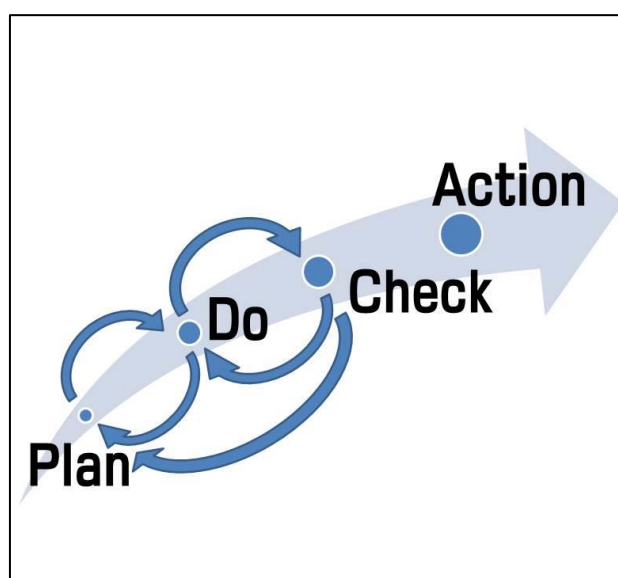
【表 2】 PDCAサイクルと自己研修の流れ

P(Plan)	自己研修のテーマ設定 テーマの明確化 情報収集と予備調査 方法や手立ての立案 育成を目指す児童生徒の姿の設定 計画立案
D(Do)	実践
C(Check)	結果の考察 振り返りと実践交流
A(Action)	改善

具体的な取組については、次のⅢに記します。この自己研修では、「自己研修のテーマ設定」から「改善」までの取組がアクション・リサーチの手法になります。この流れは、仮説検証型の研究とは異なるので、下の【図 2】のように、思ったような指導の結果が出なかったり、計画立案に不備があったりした場合などは、「Plan」に立ち返り、やり直しても構いません。

例えば、学習内容を習得させるための「テーマ設定」をした場合、指導案や文献を読み考察を深めます。

しかし、児童生徒の実態にそぐわない計画を立案してしまい、有効な効果が出ない場合もあります。そのときに、なぜ効果が出なかったのか理由をはっきりさせ、再度「情報収集」や「方法や手立て」を見直し、「計画立案」し、実践することも可能です。



【図 2】 自己研修のイメージ図

このように、自己研修を進めることで、私たち教員の力量をアップさせることができ、さらに児童生徒のために良い学習環境を提供することにつながります。

### Ⅲ 自己研修の進め方と留意点

#### 自己研修のプロセス

#### □確認しておく事項 ・ 留意点

## Plan

#### 現状把握

□ 学習指導や生徒指導、学級経営で、順調に進んでいる点、問題点は何ですか。

#### 自己研修の テーマ設定

□ 学習指導や生徒指導、学級経営の問題点から、どのようなテーマを設定しますか。

□ 自分の理想とする指導と現在の状況を比べ、どのようなテーマを設定しますか。

#### テーマの明確化

□ 自分の設定したテーマにはどのような原因や要因がありますか。  
(指導力、周りの児童生徒との関わり方や実態など)

- ・ 10 ページの「自己研修のテーマ設定シート」を使って考えましょう。
- ・ 学習指導や生徒指導、学級経営等を振り返り、指導上の問題点からテーマを設定しましょう。
- ・ 自分が設定したテーマの要因を考え、テーマに関わる根幹を見つめ直すことをねらいとしています。

#### 情報収集と 予備調査

□ 文献や書物などで、どのような内容を調べ、明らかにしたいですか。

□ 質問紙を利用した、児童生徒の意識調査や各種テストで、どのようなことを明らかにしたいですか。

- ・ 文献や書物などを紐解き、児童生徒の実態に合った情報収集をしましょう。
- ・ 学習内容に関わる事前テストも予備調査として有効です。

#### 方法や手立ての立案

□ テーマの目標を達成するためには、どのような指導を行えば効果があると思いますか。

- ・ 12 ページの「Plan シート」を使って考えましょう。
- ・ 指導の順序も含めて考えましょう。
- ・ 手立ての数だけ考察の項目があります。検証の場面と方法も考えましょう。

#### 育成を目指す 児童生徒の姿の設定

□ テーマの目標達成後の児童生徒の姿がはっきりとイメージできていますか。

- ・ 児童生徒が具体的にどのようになれば課題が解決されたことになるのかという目標を設定します。
- ・ 学習指導では、「〇〇ができるようになる。」という行動目標や「事後テストで〇〇点とれるようになる。」という数値目標が想定されます。
- ・ 生徒指導や学級経営では、数値目標の設定が難しい場合がありますが、事前調査を実施するなどして、できるだけ数値目標を設定し、事後アンケート調査により変容を分析することも有効です。



## Plan

### 計画立案

- どのような指導を計画しますか(短期か長期か。どのような内容か。)
- 実施前、実施中、実施後に進めなければならないことは何ですか。

- ・テーマや手立ての違いにより、期間の長短に差が出ます。無理のない「方法や手立ての立案」を心がけましょう。
- ・児童生徒への負担も考慮して計画を立てましょう。

## Do

### 実践

- 計画を基に、無理なく実施できていますか。
- 実施の様子を他の教員に見てもらい、客観的な意見や指導をいただきましょう。

- ・手立ての妥当性を見極めながら、実践を進めます。
- ・他の教員からの客観的な意見を、「結果の考察」、「振り返りと実践交流」に役立てましょう。
- ・必要に応じて、動画、音声、写真等で記録しておき、分析に生かしましょう。

## Check

### 結果の考察

- 自分の理想とする児童生徒像へどれだけ近づくことができましたか。

- ・検証計画に基づいて、考察を進めます。
- ・「方法や手立ての立案」に立ち返り、繰り返し実践することもできます。

### 振り返りと実践交流

- 自己研修のテーマ設定から結果の考察までを振り返り、効果があったことを簡潔にまとめましょう。
- これまでの実践から、明らかになった点、次に課題と思われる点は何ですか。
- 振り返りをもとに他の先生方等と交流し、どのような新たな手立てや問題点を得ることができましたか。

- ・「テーマ設定について」、「考察について」の2つの観点で、「自分自身に身に付いた力」や「更なる成長に向けての課題」といった自分自身を俯瞰する視点から振り返りを記述します。
- ・同学年の先生方や校内研修の場、基本研修での研修者同士の交流等で実践交流を行います。同じ内容でも、何度も言語化したり、複数の相手からフィードバックをもらったりすることで、学びを深めることができます。

## Action

### 改善

- 発見した新たな手立てや問題点から、次の自己研修へどのように取り組むか設定しましょう。

- ・「自分自身に身に付いた力」や「自分自身の指導上の課題」を基に、次の研修のテーマを見出します。
- ・教員等育成指標に示されたような大きな目標を目指しつつ、そこに近づくための解決可能なテーマを見出していくことが大切です。

## IV 自己研修を進めるために配慮する事項

### 1 自己研修の目的を確認する

自己研修を始める前、または研修中において、「なぜ、何のために」この研修をしているのかを確認することが大切です。自己研修は自己の資質を向上させ、さらには児童生徒の学習環境を改善していくものです。

自己研修の各段階で目的意識をもち、自ら進んで研修を行いましょう。

### 2 自分自身のニーズを大切にす

自己研修を進めるに当たっては、現在の課題、学びたい内容、児童生徒に身に付けさせたい力など、自分自身のニーズが出発点になります。児童生徒の様子や自分自身を見つめ直し、今自分に必要なことは何かを明確にして、テーマを設定し自己研修を進めていく必要があります。

自分自身のニーズを出発点に研修を進めていくことは、主体的な研修につながります。単なる思いつきでテーマを設定するのではなく、学習環境を見つめ直したり、情報収集して見識を深めたりしながら、今取り組むべきテーマを明らかにする必要があります。

### 3 児童生徒と共に成長していく視点を大切にす

自己研修では、テーマを設定し解決の手立てを実行しながら、実践を積み重ねていくことで、教員の自己成長につながります。児童生徒は研究の対象者ではなく、共同研究者と考えてください。先生方の指導（自己研修）が学習環境を改善し、児童生徒のために生かされていきます。PDCAサイクルを有効に生かし、教員と児童生徒が共に成長していくという視点を大切にしながら自己研修を進めましょう。

### 4 周囲の教員や上司との対話を大切にす

自己研修を進めるうえで、うまく進んでいるときも、うまくいかないとき、思うように進まないときにも、一人で判断したり抱え込んだりせず、周囲の先生方に相談していただくことが大切です。同じような経験をしたことがある先生から、的確なアドバイスをいただける場合があります。

計画を実施する場合、周囲の先生方に参観してもらいましょう。参観したことを基に、対話をし、自己研修の妥当性や「手立て」に対する考えを深め、情報を共有することで互いの専門性の向上につなげていきます。

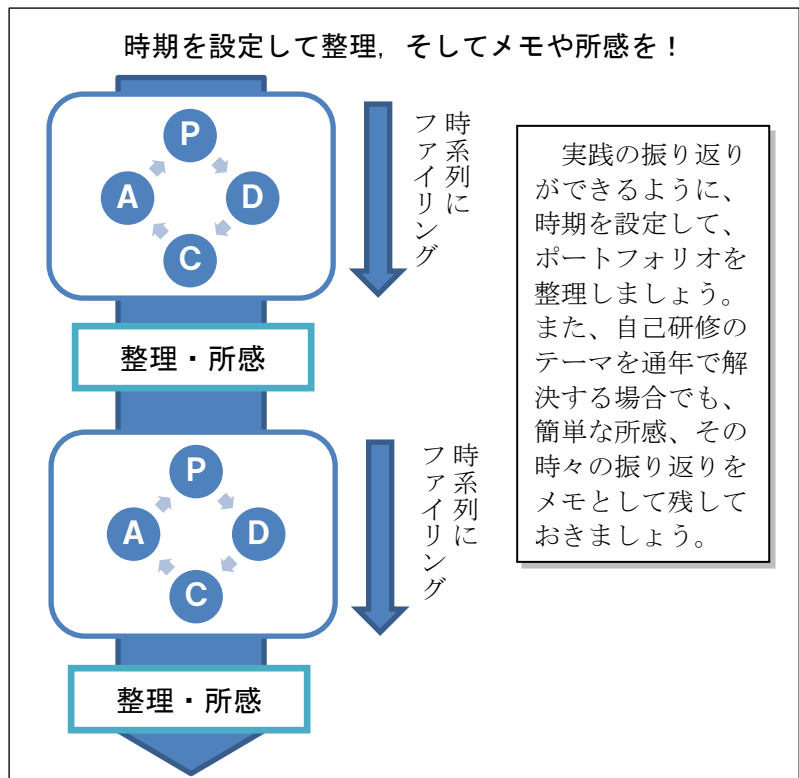
### 5 客観的に振り返る機会を設定す

「振り返り」でまとめた記録を活用しながら、自己研修全体を振り返る機会を設定していくことは重要です。時には、他の先生方からも意見をもらい、客観的に評価することも必要です。自分自身の取組を振り返り、決して独り善がりの指導にならないよう、謙虚に周囲の声に耳を傾け、自己の指導を見つめ直し、児童生徒の学習環境の改善に努めていかなければなりません。

# V 自己研修のポートフォリオ

## 1 自己研修のポートフォリオとは

自己研修のポートフォリオ（以下、ポートフォリオ）とは、自己研修のテーマを解決するために取組を行う中で作成、収集した資料（指導案や実践記録、教材、レポート等）を蓄積、整理したものをいいます。



## 2 ポートフォリオの取組から期待できること

ポートフォリオの取組を行うことにより、以下の点が期待できます。

- ・自己研修の足跡を記録として蓄積することができる。
- ・蓄積、整理することで、自分の実践を振り返り、自己の成長や新たな課題が見え、レポートにまとめることができる。
- ・レポートやポートフォリオを持ち寄り、お互いの教育実践を交流することで自他の成長を確認したり、新たな自己課題やその改善に向けた手立てに気づいたりすることができる。
- ・新たな自己研修テーマの設定、その改善に向けた取組がサイクルとなり、自己研修が継続していく。

## 3 ポートフォリオに綴じ込む資料例

- ・自他の教育実践の成果と課題
- ・指導案
- ・教材研究メモ
- ・学習プリント
- ・文献
- ・授業記録
- ・動画、音声、写真等
- ・研究会記録（他の教員から指摘された内容や改善策等）
- ・児童生徒の作品
- ・研修会資料
- ・実践ごとの所感 等

## Ⅵ 自己研修のためのシート

(1) 自己研修の進め方

### 自己研修のテーマ設定シート

■次の4つの項目について考え、書きやすいところから書いてみましょう。

<p>【児童生徒の現状】</p>	<p>【目指したい児童生徒の姿】</p>
<p>【教員（自分）に起因する要素】</p>	<p>【教員として高めたい力量】</p>

■上の4つの項目を参考にして、取り組む「自己研修のテーマ」を書きましょう。

--

(1) 自己研修の進め方

# 自己研修のテーマ設定シート **記入例**

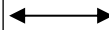
■次の4つの項目について考え、書きやすいところから書いてみましょう。

## 【児童生徒の現状】

- ① 指示待ちの児童が多く、積極的な活動が行われない。
- ② ペアやグループでの話し合い活動が活発に行われず、話し合いの前後で変化がない。
- ③ 挙手・発言する児童が固定化している。

## 【目指したい児童生徒の姿】

- ① 自分で考え、進んで活動をする。
- ② ペアやグループでの話し合い活動が活発で、話し合いにより学習や活動が充実する。
- ③ 自分が思っていることや考えていることを誰もが表現できる。

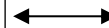


## 【教員（自分）に起因する要素】

- ① 説明や指示が多く、児童に考えさせたり、判断させたりする場面の設定が少ない。
- ② 話し合い活動の具体的な手立てや、児童の考えを広げる発問が不得手である。
- ③ 自分の考えを整理し、自信を持って発言できる児童を育成するための方法がわからない。

## 【教員として高めたい力量】

- ① 児童に考えさせるための発問や授業の展開を考え、実践する力。
- ② 話し合いの目的を明確に示し、必然性のある話し合いを行わせる力。
- ③ 話す内容が整理できる学習シートを開発・改善する力。



■上の4つの項目を参考にして、取り組む「自己研修のテーマ」を書きましょう。

自分の思いや考えを整理し、自分の言葉で伝えられるようにするための学習シートの工夫

※優先順位の高い項目に絞って具体的にテーマ設定をすることが大切です。

(1) 自己研修の進め方

# Planシート

■自己研修のテーマ

■テーマの明確化

■情報収集と予備調査

■方法や手立ての立案

■児童生徒のゴール像設定

■計画立案

## (1) 自己研修の進め方

# Planシート

# 記入例

### ■自己研修のテーマ

自分の思いや考えを整理し、自分の言葉で伝えられるようにするための学習シートの工夫

### ■テーマの明確化

- ・自分の思いや考えを自分の言葉で伝えるために必要なことは、話すことに自信をもたせることだろう。
- ・話す内容を整理したり、順序立てたりしながら、自分の話を相手にわかりやすく伝える経験をさせることで徐々に自信をもつことができるようになるだろう。

### ■方法や手立ての立案

- ・自分の考えを伝えようとする態度を積極的に認める。(内容が途中で)
- ・調査した文献をもとに話型を示したり、話すことを予め書かせたりするための学習シートを準備する。
- ・話すことや話し合いの目的を理解させるために、発問や指示を明確にする。

### ■情報収集と予備調査

- ・事前アンケートを実施
- ・アンケートの結果から見えたこと
  - (1)話すことに不安感を持っている。
  - (2)何をどう話せばいいのかわからない。
  - (3)考えたことを言葉にすることが苦手。
- ・2つの文献「わかりやすい話し方」、「話すことに自信がもてる授業」を授業の実践計画に役立てる。

### ■児童生徒のゴール像設定

- ・自分の思いや考えを自分の言葉で話すことができる。
- ・友達の発言を受けて、自分の考えとの相違点に気付いたり、新たな考えを広げたりできる。
- ・今回のゴールは、隣の児童に自分の考えを話せるようになることとする。

### ■計画立案

5月 アンケート(事前)作成  
先輩に見ていただき修正後実施  
アンケート結果分析  
授業計画の作成

6月 授業実践

7月 アンケート(事後)作成と実施  
アンケート分析  
ここまでの報告書を作成

8月 分析結果を基にした授業改善  
校内研での発表

9月 授業計画の作成

10月 授業実践

11月 実践の分析とまとめ

12月 報告書作成と新たなテーマ設定

(1) 自己研修の進め方

# Do & Check シート①

テーマ
-----

■実践記録 (Do)

期日・期間	実践内容や指導内容

■結果の考察 (Check)

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



## Do &amp; Check シート①

テーマ 自分の思いや考えを整理し、自分の言葉で伝えられるようにするための学習シートの工夫

## ■実践記録 (Do)

期日・期間	実践内容や指導内容
5月□日	アンケートの実施（事前）と分析
6月中	授業実践（校内指導教員から指導をいただく）
7月□日	アンケートの実施（事後）と分析
8月□日	校内研での発表に向けた自己研修の振り返り（校内指導教員）

## ■結果の考察 (Check) (○成果、●課題、◇手立て、?疑問)

5月□日 アンケートの実施（事前）と分析

●話すことに対して自信がない、不安があると回答した児童が予想以上にいた。

●どう話せば相手に伝わるのか分からない児童が多いことが分かった。

?児童の不安や抵抗感を取り除くにはどうすればよいか。

6月△日～ 授業実践

◇不安になる要因を取り除く配慮（途中でよい、話せるところまでよい）をした上で、文献を参考に、話す内容が整理できる学習シートを使った授業実践を行った。

○発表する際、児童の表情の変化や意欲の高まり、他者意識が感じられるようになった。

○途中まででも話してみようと思って手を挙げる児童が増え、その子が困ったら助けてあげるという雰囲気がでてきた。

●何をすればよいか分からず、学習が停滞している児童も見られる。

◇発問や指示の言葉を整理し、短く話すようにする。

○発問の整理を行ったことが、児童の聞き返し、迷いの減少にもつながった。

7月□日 アンケートの実施（事後）と分析

○プラス傾向に回答が移る児童がほとんどであった。記述内容からも、話すことに対する自信がついてきている様子を感じられた。

●一方わずかではあるが、マイナス傾向の回答を示した児童も見られた。その児童にとって話し合い活動が負担となっていなかったか検討が必要である。

◇話し合い活動が負担に感じる原因を、参観した先生方のアドバイスや文献、児童の聞き取りなどから分析して改善したい。

◇話し合い活動において、話し手や聞き手がどのように関わればよいのか、そのコミュニケーションについて学び、次のステップにつなげたい。



(1) 自己研修の進め方

# Actionシート

■ 自己研修を終えて

自己（教員自身）の変容（成長したこと）

児童生徒の変容（成長したこと）

■ 自己研修の改善（Action）

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

◇参考「自己研修シート」(様式集)

2年目研修、3年目研修では、この「自己研修シート【様式1】」に自己研修の取組内容をまとめ、センター研修で交流します。

※総合教育センターWeb ページ ホーム>研修

(URL <https://www1.iwate-ed.jp/03kenshu/index.html>)



## (2) 自己研修シート【様式1】

学校名 \_\_\_\_\_ 小学校 \_\_\_\_\_ 学年・内容 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

### 1 自己研修のテーマ

--

### 2 テーマ設定の理由

### 3 手立てと検証の方法

手立て	検証の方法

### 4 研修のスケジュール

月日	実践の場	実践内容

### 5 実践結果

手立て	実践結果

## 6 実践の考察

### 7 実践の振り返り（できたことや、改善すべきことを具体的に記述）

#### （1）テーマ設定について

視点の例

- ・自分自身のニーズに合ったテーマ
- ・テーマを実現するための手立て

#### （2）考察について

視点の例

- ・児童生徒の変容の捉え方

## 8 担当者からのコメント

※A4片面2枚以内に収めること

## 教職経験者 5 年研修、中堅教諭等資質向上研修における自己研修のテーマ設定について

### 留意点

- ・自己研修のテーマ設定については、岩手県教育委員会の定める「校長及び教員の資質向上に関する指標」や「資質向上のためのセルフチェックシート」の記入状況に基づき、行うことが望ましい。
- ・中堅教諭等資質向上研修の「自己研修シェアリング」では、各自の取組の交流を通して、「実践力の充実期」に求められる役割（学校経営への参画、マネジメント力等）をどう意識し、どのように実践に取り入れてきたのかについてグループ協議を行う。

### テーマ設定例

#### <教職経験者 5 年研修>

##### ア キャリア・ライフステージ

「実践力の向上期」

##### イ 目指す教師像

「複数の学校勤務の経験を通じて、教諭としての基盤を確立し、自らの実践を常に振り返りながら、職務遂行能力を向上させている。」

##### ウ テーマ例

「より良い動き方を考えながら学ぶ児童の育成 ～マット運動における自分と友達の動きを比べる場作りを通して～」

#### <中堅教諭等資質向上研修>

##### ア キャリア・ライフステージ

「実践力の充実期」

##### イ 目指す教師像

「学校運営の中堅として、学校全体を見渡す視野を持ち、若手教員の模範となりながら職務遂行能力を更に高めている。」

##### ウ テーマ例

「校内外の連携を軸とした不登校生徒への対応～生徒指導主事としての働きかけ～」

◇参考 中堅教諭等資質向上研修「自己研修シェアリング」では、取組内容をこの様式にまとめ、グループ協議を行います。取り組み方については、総合教育センターWeb ページに掲載の「自己研修の意義と進め方（中堅教諭等資質向上研修対象者用）」を必ず確認すること。

(4) 自己研修シェアリング〔様式2〕（中堅教諭等資質向上研修）

(事前提出用)

自己研修シェアリング

【様式2】

学校名：	氏名：
------	-----

<自己研修テーマ>

	記入欄
<b>テーマ設定の理由</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのテーマを選んだ理由</li> <li>・この指導によつての効果の見通し</li> </ul>	
<b>手立て</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な取り組み方法、流れ</li> </ul>	
<b>実践の様子</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践してみでの感想、効果</li> </ul>	
<b>実践結果の考察</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の対象と変容の分析、考察</li> <li>・手立ての妥当性</li> </ul>	
<b>結果を受けての改善</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに行った改善点</li> <li>・これまで受けた助言</li> </ul>	
<b>ミドルリーダーとしての今後の展望</b>	
研修の振り返りやシェアリングを踏まえて、今後力を入れていきたいこと	

※各自で記入欄の幅は調整して使用すること。

# 自己研修を通して学んだこと

令和5年度 研修講座アンケート「今後の教育活動に生かしたいこと」  
自己研修振り返りシート「今後の展望」より

## 【テーマ設定について】

テーマが壮大であったため、生徒の実態に合っていたか課題が残った。対話が目的なのか、主体性が目的なのか、学び方が目的なのか明確にする必要があると分かった。

(中学校2年目研)

P D C Aサイクルの中で、Pが弱いと気付くことができた。また、D Cの前の確認がとても大切だと思った。Dに入る前の模擬授業など、実践前に計画に対しての気付きが得られれば、Pに戻ることができる。Planの段階にもっと時間を使って、自己研修に取り組みたい。(中学校3年目研)

テーマ設定を明確にわかりやすく設定したほうが、子供の学習に対しての手立てを細かく立てることができる。また、他の教員も活動に対しての把握をしやすいので、連携をとりやすいのだということも他の教員の自己研修内容を聞いて感じた。単元を考える際、テーマの考察をもっと内容にフォーカスしたい。(特別支援学校3年目研修)

## 【取組について】

教師からの視点だけでなく、生徒の「なぜ」や疑問にもっと寄り添った取組が必要だと学んだ。生徒自身がなりたい姿や求めているものを中心に考える視点をもちたい。

(中学校3年目研)

実践において、評価を含めた長期的な見通しをもちたい。生徒が考える、やってみる時間を確保する余白のある指導を心がけたい。実践では、具体的なイメージが必要だと思った。(中学校3年目研)

同じテーマを設定しても、色々な迫り方や工夫があることが分かり視野が広がった。  
(中学校2年目研)

先輩の先生方に助言していただいたり、実践の前後で客観的に判断するためのデータ(数値)を集めたりしながら、自己研鑽を積むことが必要だと感じた。学び続ける生徒を育てるためには、我々が学び続けなくてはならないとも感じた。(中学校2年目研)



継続できる実践を目指して、内容を精選していきたい。リフレクションシートを主体性の評価として用いたねらいはよかったが、現在の様式では恐らく継続できないと思った。どのように精選していくか考えていきたい。(中学校3年目研)

自己研修の交流では自身の教科のみならず他教科の先生方の実践を聞き、教科は異なっても様々な場面で生徒の学習意欲を高めるような工夫をしており、自分なりに模索しながら今後も自己研修を進めていきたいと感じた。(高等学校3年目研)

自分の考えに対して、客観的な意見や他者の取り組みを受けて、今後の問題解決の幅が広がった。(高等学校3年目研)

自己研修の進め方を通して、来年度のビジョンが少し明確化できたと感じた。今回の自己研修シートでは給食指導を取り上げたが、現在学級で行っている学習や児童の実態を踏まえて、持ち帰ってからすぐに始められること、2年目研に備えて準備できること、2年目研以降も大切にしたい「実践はブラッシュアップし続けること」などを学んだ。今後の教育活動に活かしていきたい。(特別支援学校初任者研修)

### 【検証について】

批判的に検証する力をさらに身に付けたい。手立ての有効性や妥当性について検証し、次の指導に生かしていくことが大切だと感じた。(小学校3年目研)

教師側のワークシートや授業での観察だけで振り返るのではなく、一時間の中で生徒が分かったことや深まったと感じた部分を取り上げ、授業改善につなげていきたい。(中学校2年目研)

生徒の変容や課題について、客観的に分析することが大切であると分かった。議論させることがゴールではなく、考えが深まったかを見取っていきたい。(中学校2年目研)

### 【ゴール設定について】

自己研修を通して、1年目に比べて自分で自分の授業の課題に気づき、ゴールを意識することができるようになった。ゴールを意識して、それに向かって学習活動を組むことが大切だと思う。(小学校3年目研)

自己研修の作成について、結局どこをゴールに設定するのかという点が大切だと実感した。ゴールを明確化焦点化し、達成するための手立てを工夫しながら計画していきたい。6月から始まる自己研修においては、生徒の実態把握はもちろんのこと、日々の記録を具体的に残し、どこに傾向があるのか研究していきたい。(特別支援学校2年目)

**教員のための  
自己研修の進め方**

～アクション・リサーチの手法を用いて～

令和6年4月

発行 岩手県立総合教育センター  
花巻市北湯口2-82-1  
〒025-0395 TEL 0198-27-2711

発行者 岩手県立総合教育センター  
研修推進委員会